

令和4年度

藤沢市若年性認知症受入れに関する調査

藤沢市保健所保健予防課

目 次

1	調査の概要	
(1)	調査の目的	P. 1
(2)	調査対象・調査方法	P. 1
(3)	調査の実施状況について	P. 2
2	調査結果	
(1)	調査項目結果	
ア	基幹相談支援センター（1）委託相談支援事業所（5）・介護保険居宅 介護支援事業所（106）	P. 3
イ	就労移行（20）・就労継続支援事業所（35）	P. 4
ウ	地域包括支援センター（いきいきサポートセンター）（19）	P. 5
エ	CSW（藤沢市社会福祉協議会）（13）	P. 6
(2)	自由記載調査結果	
ア	支援の課題（現状・過去）	P. 7
イ	必要な社会資源	P. 9
ウ	研修希望内容	P. 11
3	結果についての考察および課題など	
(1)	アンケート調査実施について	P. 14
(2)	相談内容について	P. 14
(3)	必要な社会資源について	P. 14
(4)	研修希望内容について	P. 14
(5)	考察・課題	P. 15
4	資料	P. 17
(1)	基幹相談支援センター・委託相談支援事業所・介護保険居宅介護支援事業 所・就労移行・就労継続支援事業所対象アンケート用紙	P. 19
(2)	就労移行・就労継続支援事業所対象アンケート用紙	P. 21
(3)	地域包括支援センター対象アンケート用紙	P. 23
(4)	CSW（藤沢市社会福祉協議会）対象アンケート用紙	P. 25

1 調査の概要

(1) 調査の目的

65歳未満で発症した認知症は「若年性認知症」と総称される。発症すると就労や経済面、介護、子どもの養育など、本人のみならず家族や周囲の人々にも大きな影響をもたらすことが想定される。

18歳から64歳人口における若年性認知症の有病率は人口10万人当たり、※50.9人(95%信頼区間43.9-57.9)であり、藤沢市の人口441,547人(2022年4月時点)当たり、おおよそ220人程度の患者数が推定される。内、介護保険の認定を受けている患者数は男性23人・女性16人で計39人である(2022年4月1日時点)。

この度、若年性認知症の方の現状を把握し、若年性認知症の本人・家族の支援体制の構築に結び付けることを目的とし調査を実施した。

(2) 調査対象・調査方法

ア 調査対象 藤沢市内の関係事業所

- (ア) 委託相談事業所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1か所
- (イ) 計画相談支援事業所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5か所
- (ウ) 介護保険居宅介護支援事業所・・・・・・・・・・・・106か所
- (エ) 就労移行事業所・就労継続支援事業所・・・・・・・・55か所
- (オ) 地域包括支援センター(いきいきサポートセンター)・・・19か所
- (カ) 藤沢市社会福祉協議会(CSW)・・・・・・・・・・・・13か所

イ 調査方法

(ア) 調査票の配布方法

調査票を郵送で各事業所に配布

(イ) 回収方法

F a xまたはメールにより回収

(ウ) 調査実施期間

2022年8月9日(火)～2022年8月31日(水)

※出典：日本医療研究開発機構認知症開発研究事業による「若年性認知症の有病率・生活実態把握と多元的データ共有システムの開発」(令和2年3月)

ウ 主な調査項目

調査対象	調査項目
・ 共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年性認知症の方の相談・受入れの有無（現在・過去） ・ 相談、活動内容 ・ 利用サービスの種類 ・ 支援の課題（現在・過去、自由記載） ・ 必要な社会資源（自由記載） ・ 研修希望内容（自由記載）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹相談支援センター ・ 委託相談支援事業所 ・ 介護保険居宅介護支援事業所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の工夫や連携機関
・ 就労移行・就労継続支援事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年性認知症の方の受入れの可否
・ 地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の工夫や連携機関
・ 藤沢市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通のみ

(3) 調査の実施状況について

若年性認知症者の利用が見込まれる各関係機関199か所に調査票を送付したところ、134か所から回答があり、回答率は67.3%であった。

対象機関	対象数	回収数	回収率	現在、過去に相談・利用有機関	利用なし
基幹相談支援センター	1	1	100.0%	1	0
委託相談・計画相談支援事業所	5	3	60.0%	1	2
介護保険居宅介護支援事業所	106	73	68.9%	31	40 (未記入2)
就労移行・就労継続支援事業所	55	39	70.9%	2	37
地域包括支援センター	19	13	68.4%	7	6
藤沢市社会福祉協議会(CSW)	13	12	92.3%	1	11
合計	199	141	70.9%	43	96 (未記入2)

2 調査結果

(1) 調査項目結果

調査結果の数の集計については、調査票別の集計とした。また回答割合は、回答数に対するものとした。

ア 基幹相談支援センター・委託相談支援事業所・介護保険支援事業所 (n=73)

問			項目	回答数	割合(%)	
問1			相談の有無	相談あり(現在・過去)	31	42.47%
				相談なし	40	54.79%
				回答なし	2	2.74%
問2	問2-1 現在、相談を受けている進行形のケースがある場合	(1)相談内容 (主なもの2つまで)	就労	3	4.11%	
			社会参加	3	4.11%	
			経済面	3	4.11%	
			治療	0	0.00%	
			介護保険	15	20.55%	
			障がい福祉	4	5.48%	
			その他(入所について、認知症の対応、生活面、小規模多機能等を含む)	2	2.74%	
		(2)利用しているサービス (複数回答可)	ア 介護保険サービス	デイサービス	13	17.81%
				ホームヘルプ	4	5.48%
				訪問看護	5	6.85%
	ショートステイ	3		4.11%		
	イ 障がい福祉サービス	その他(福祉用具、小規模多機能、訪問診療等を含む)	5	6.85%		
		就労	1	1.37%		
		ホームヘルプ	2	2.74%		
		ショートステイ	1	1.37%		
	ア・イとも利用なし	その他	0	0.00%		
		利用なし(サービス調整中含む)	4	5.48%		
	問2-2 過去に相談を受け、終了したケースがある場合	(1)相談内容 (主なもの2つまで)	就労	4	5.48%	
			社会参加	8	10.96%	
経済面			6	8.22%		
治療			1	1.37%		
介護保険			15	20.55%		
障がい福祉			5	6.85%		
その他(医療の訪問看護、障害年金等含む)			4	5.48%		
(2)利用していたサービス (複数回答可)		ア 介護保険サービス	デイサービス	16	21.92%	
			ホームヘルプ	6	8.22%	
			訪問看護	2	2.74%	
			ショートステイ	12	16.44%	
		その他(福祉用具、付き添い等含む)	4	5.48%		
		イ 障がい福祉サービス	就労	2	2.74%	
ホームヘルプ	1		1.37%			
ショートステイ	0		0.00%			
ウ その他	その他	0	0.00%			
利用なし	2	2.74%				

※ 回答率は回答数に対する割合
 ※2 回答数指定の設問は指定回答数を超過しているものも全て計上

イ 就労移行・就労継続支援事業所

(n=39)

問			項目	回答数	割合(%)		
問1		サービス種別	就労移行	15	38.46%		
			就労継続	25	64.10%		
問2		受け入れの有無	実績あり	2	5.13%		
			実績なし	30	76.92%		
問3	問3-2	(1) サービス終了の理由	病状の進行	2	5.13%		
			本人の希望	0	0.00%		
			家族の希望	0	0.00%		
			不明	0	0.00%		
			その他	0	0.00%		
		(2) 受け入れ可否	可能	2	5.13%		
			不可	2	5.13%		
		(3) 不可の理由	プログラムがない	2	5.13%		
			他の利用者との関係性	2	5.13%		
			人員不足	1	2.56%		
知識や技術がない	1		2.56%				
		その他	0	0.00%			
問4		(1) 今後の受け入れ	可能(実習を受けていただき検討・応相談含む)	13	33.33%		
			不可	20	51.28%		
			その他(要相談含む)	6	15.38%		
		(2) 不可の理由	プログラムがない	13	33.33%		
			他の利用者との関係性	6	15.38%		
			人員不足	8	20.51%		
			知識や経験がない	16	41.03%		
			その他(ご本人の状況次第・定員に達しているため含む)	4	10.26%		
		※ 回答率は回答数に対しての割合					
		※2 回答数指定の設問は指定回答数を超過しているものも全て計上					

ウ 地域包括支援センター

(n=13)

問			項目	回答数	割合(%)	
問1			相談の有無	相談あり(現在・過去)	7	53.85%
				相談なし	6	46.15%
問2	問2-1 現在、相談を 受けている進 行形のケー スがある場 合	(1)相談内容 (主なもの2つ まで)		就労	0	0.00%
				社会参加	0	0.00%
				経済面	1	7.69%
				治療	1	7.69%
				介護保険	1	7.69%
				障害福祉サービス	1	7.69%
				その他	0	0.00%
				(2)利用している サービス (複数回答可)	ア 介護保険 サービス	デイサービス
	ホームヘルプ	0	0.00%			
	訪問看護	0	0.00%			
	ショートステイ	0	0.00%			
	その他	0	0.00%			
	イ 障がい福祉 サービス	就労	0		0.00%	
		ホームヘルプ	0		0.00%	
		ショートステイ	0		0.00%	
	ア・イとも利用 なし	利用なし	2	15.38%		
問2-2 過去に相談を 受け、終結し たケー スがある場 合	(1)相談内容 (主なもの2つ まで)		就労	1	7.69%	
			社会参加	2	15.38%	
			経済面	1	7.69%	
			治療	1	7.69%	
			介護保険	3	23.08%	
			障害福祉サービス	0	0.00%	
			その他	0	0.00%	
			(2)利用していた サービス (複数回答可)	ア 介護保険 サービス	デイサービス	4
	ホームヘルプ	1			7.69%	
	訪問看護	0			0.00%	
	ショートステイ	0			0.00%	
	その他	0		0.00%		
	イ 障がい福祉 サービス	就労		1	7.69%	
		ホームヘルプ		0	0.00%	
		ショートステイ		0	0.00%	
	ウ その他	その他	1	7.69%		
利用なし		0	0.00%			

※ 回答率は回答数に対する割合

※2 回答数指定の設問は指定回答数を超過しているものも全て計上

エ 藤沢市社会福祉協議会 (C S W)

(n=12)

問					回答数	割合
問1			相談の有無	相談あり(現在・過去)	1	8.33%
				相談なし	11	91.67%
問2	問2-1 現在、相談を受けている進行形のケースがある場合	(1)主な相談内容は何でしたか(主なもの2つまで)		就労	1	8.33%
				社会参加	0	0.00%
				経済	1	8.33%
				治療	0	0.00%
				介護保険	0	0.00%
				障がい福祉	0	0.00%
				その他	0	0.00%
				デイ	0	0.00%
				ホームヘルプ	0	0.00%
	問2-2 過去に相談を受け、終了したケースがある場合	(2)利用しているサービス(主なもの2つまで)	ア 介護保険サービス	訪看	0	0.00%
				ショート	0	0.00%
				その他	0	0.00%
				ア・イとも利用なし	1	8.33%
			イ 障がい福祉サービス	デイ	0	0.00%
				ホームヘルプ	0	0.00%
				訪看	0	0.00%
				ショート	0	0.00%
				その他	0	0.00%
	(1)主な相談内容(主なもの2つまで)		就労	0	0.00%	
			社会参加	0	0.00%	
			経済	0	0.00%	
			治療	0	0.00%	
			介護保険	0	0.00%	
			障がい福祉	0	0.00%	
			その他	0	0.00%	
			ア 介護保険サービス	デイ	0	0.00%
				ホームヘルプ	0	0.00%
訪看	0	0.00%				
ショート	0	0.00%				
イ 障がい福祉サービス	その他	0	0.00%			
	デイ	0	0.00%			
	ホームヘルプ	0	0.00%			
	訪看	0	0.00%			
その他	ショート	0	0.00%			
	その他	0	0.00%			
	利用なし	0	0.00%			
※ 回答率は回答数に対する割合						
※2 回答数指定の設問は指定回答数を超えているものも全て計上						

(2) 自由記載調査結果

ア 支援の課題（現状・過去）

(ア) 本人について（12件）

- ・本人のメンタルケア（介護保険サービスでは年齢差があり周囲の理解が得にくい、不安感の強い本人へのケア）（3）
- ・病状の進行と生活全般への介助（2）
- ・サービス導入にかかる本人の理解と受け入れ
- ・認知機能以外の症状合併
- ・精神障がいや高次脳機能障がいの方と同じような対応をしている。本人の尊厳の維持。
- ・本人がサービスを希望しない。
- ・車の運転などの危険行為
- ・短期記憶欠如により記憶があいまいで、コミュニケーションが取りづらかった。
- ・本人短期記憶の保持の困難さ以外症状がないため、知的・精神障害者の方と馴染めない。

(イ) 介護者・家族について（19件）

- ・家族の病気への理解（6）
- ・家族のストレスケア（3）
- ・家族が就労していて介護負担が大きい、就労と介護の両立が難しい。（4）
- ・配偶者に対する配慮
- ・家族の理解を得ながらのサービス提案と支援
- ・親が若く罹患し、子どもがヤングケアラーに。教育や生活が十分に支援を受けられず、相談先もなく世帯全体が貧困に。子どもが相談できる場や仕組み
- ・子を介護する親の高齢化、親亡き後の不安。（2）
- ・家族の協力

(ウ) 社会資源について (22件)

- ・介護保険や高齢者のデイサービスでは年齢差がありなじめない、若年性認知症の人が利用できるデイサービスが必要。(7)
- ・進行が速いためサービス利用の手続きが間に合わない、サービス量の不足を補えない、見合ったサービスの調整(入所のタイミングなど)(4)。
- ・本人の希望に合った既存のサービスがない、障がいの就労などになじめない、作業についていけない。(2)
- ・本人に合うデイサービスがない、現在は理由あり役割を持って毎日通所している。受け入れ先のマッチングに時間がかかる。(2)
- ・他の疾患との見極めができず、支援の方向性が定まるまでに時間がかかった、障がいサービスを進められたが年齢的に介護保険で対応、たらい回しになった。
- ・進行が早くデイサービスでも対応しきれない、障がい者施設(GH・就労)では対応が難しかった。
- ・関係機関との調整
- ・介護保険と障がい福祉サービスの併用、連携、役割分担。
- ・受け入れ可能なサービス事業所に限りがあること。
- ・周辺症状多いため、見守りサービス。
- ・40代の高次機能障がいの方、介護保険のデイサービスは馴染めずリハビリも週一で20分のため、効果が上がりにくい。

(エ) 就労・経済関係について (6件)

- ・経済的な支援情報の提供(2)
- ・就労の継続(2)
- ・家族や親族の支援なく、経済的支援の課題。
- ・無年金で障がいサービスもなく、世帯困窮のためサービス利用不十分で家族による身体拘束に至った。

(オ) 交流・ネットワークについて (2件)

- ・社会参加(2)

(カ) 情報・相談先について (2件)

- ・情報や利用先
- ・障がい福祉サービス提供の事業所の不足

(キ) 地域社会について (1件)

- ・地域や社会の理解

イ 必要な社会資源について

(ア) 本人について (2件)

- ・本人の強みを活かした支援
- ・経済的、子育て、仕事、子の進学など高齢者とは課題が異なる。

(イ) 介護者・家族について (11件)

- ・家族支援 (5)
- ・家族への経済的、精神的支援 (2)
- ・ケアラー支援
- ・家族の病状の理解
- ・介護負担の軽減
- ・外見ではわかりづらく、社会の理解が得にくい。家族も理解しづらい。

(ウ) 交流・ネットワークについて (33件)

- ・当事者、家族の会、若年性認知症を対象とした集いの場（ケアや悩みの事が共有できる場）。 (24)
- ・少人数でも若年性認知症に特化できるデイサービス、施設、認知症カフェなどの居場所。 (5)
- ・ネットワークの構築
- ・多世代で交流できる場
- ・認知症予防の活動の場
- ・看護師のいる集いの場

(エ) 経済・就労関係について (30件)

- ・就労支援 (13)
- ・就労継続できる企業、企業の理解、働き続けやすい職場環境、就労の継続 (6)
- ・経済的支援 (5)
- ・短時間で一般的な賃金で就労できる場（障がい認定が取れるまでの収入、居場所、能力維持のため）。 (3)
- ・本人の残存能力を活かして就労できる場
- ・就労の対価ありの仕事として通えるデイサービスやデイサービスと連携したお店（自動車整備工場での洗車、飲食店のウェイターなど）
- ・就労Bのような工賃があり本人の状態に合わせて働ける場、生きがいの場

- (オ) 地域社会について (22件)
- ・地域住民とのつながりや理解、地域の理解 (11)
 - ・地域やGPSの見守り (7)
 - ・理解者が増える、インフォーマル支援の充実 (3)
 - ・地域住民の身近な関わり
- (カ) 社会参加について (22件)
- ・当事者が参加できる地域のスポーツや趣味のサークル (6)
 - ・今までの人生を否定されることのない、差別されていると思われない活動の場、社会参加の場。 (4)
 - ・役割を得られる場 (3)
 - ・まだできる力をいかせるような場所、活動の場 (本人の意欲がない場合が多い)。(2)
 - ・症状が進行しても参加できる場 (2)
 - ・日中活動の場
 - ・介護保険と障がいサービスの隙間を埋められるようなグループ。
 - ・障がいと認知症の間を埋められるようなグループ
 - ・レスパイト入所、通所できる施設
 - ・通期継続の支援は既成の制度では対応できないため、ボランティアに依頼している。
- (キ) 情報・相談先について (16件)
- ・若年性認知症の診断ができる医療機関の情報やアクセス。(3)
 - ・相談先、若年性認知症コーディネーターの周知 (2)
 - ・ワンストップで相談できる場所 (本人のことだけでなく家族全体のことや経済的なこと) (2)
 - ・相談できる人、場所
 - ・専門の相談先
 - ・若年性認知症の家族会はあるが、参加できる方は少ない。戸別訪問など相談できる仕組みの選択肢を増やす。
 - ・市町村、関係機関との連携体制
 - ・産業医やケアマネ、カウンセラーのチーム
 - ・ケアマネだけだとケアしきれないため、家族支援、就労、経済面など一緒に支援してくれる仕組み。
 - ・社会資源一覧、活用例ハンドブック
 - ・相談コールセンター
 - ・チャレンジⅡのような専門の相談支援事業所があると相談やピアカウンセリング、家族の交流ができるのでは。

- (ク) 医療・疾患について（3件）
 - ・若年性認知症の理解（2件）
 - ・疾患を理解する勉強会
- (ケ) その他（1件）
 - ・藤沢は社会資源が豊富だと思う。

ウ 研修希望内容

- (ア) 本人について（5件）
 - ・本人の体験談（困りごと）（2）
 - ・本人との関わり方
 - ・本人の病気の受容までの心理的な関わり方
 - ・本人の心理面の理解
- (イ) 介護者・家族について（7件）
 - ・家族へのアドバイスの方法とタイミング（4件）
 - ・家族のかかわり方
 - ・家族支援（生活支援、経済支援）について既存の仕組みと今後の構想
 - ・進行が速いため、家族が理解できるような関わり方
- (ウ) ケース具体例（28件）
 - ・支援事例、事例検討（10）
 - ・本人や家族の体験談（8）
 - ・事例の紹介（2）
 - ・症状や症例、実践されている事業所の事例（2）
 - ・ケアマネの関りやプラン内容の事例
 - ・事例をふまえた対応例について
 - ・本人と家族の世帯支援の事例
 - ・就労先の継続（会社との対応例）、退職後の制度の活用、再就職に向けたコーディネート、障がい者枠での就労の事例。
 - ・症状の経過と作業能力や対人関係などの事例
 - ・声かけの仕方や本人に合う作業

- (エ) 医療・疾患について (27件)
- ・ 病気の理解 (症状や最新の治療法、早期対処と治療) (10)
 - ・ 医学的な知識、対策や予防方法 (4)
 - ・ 若年性認知症の現状と課題 (3)
 - ・ 早期診断のポイント (2)
 - ・ 民間企業への若年性認知症の啓発や現状 (2)
 - ・ 症例についての理解
 - ・ 医療との連携
 - ・ 受診のタイミング
 - ・ 高齢者の認知症と若年性認知症の支援の違いや留意点
 - ・ 失語
 - ・ 若年性認知症の現状
- (オ) 社会資源について (情報・相談先含む) (23件)
- ・ 相談支援機関、支援サービスについて (5)
 - ・ 市内既存の若年性認知症の支援の社会資源、他都市の取り組み (3)
 - ・ 関係機関、医療機関の連携や役割分担 (3)
 - ・ 利用できるサービスや手続き、社会資源 (3)
 - ・ 若年性認知症に特化したサービスの情報 (2)
 - ・ つながりや活用できる社会資源の情報 (SNSなども含む)
 - ・ 障がい支援と介護保険の使い分けについて医療機関へ周知
 - ・ 本人が楽しみをもって通える場所 (地域や特性に合わせて)
 - ・ 相談できる専門医のいる医療機関や相談窓口
 - ・ 若年性認知症支援コーディネーターの役割
 - ・ 制度・法令
 - ・ 受け入れ後の相談、連携先
- (カ) 対応について (23件)
- ・ 具体的なケアや対応の方法、日常生活での支援 (8)
 - ・ 進行状況に合わせた対応 (6)
 - ・ 若年性認知症の方の支援方法 (4)
 - ・ 本人への接し方や心理的支援 (2)
 - ・ 在宅の支援体制、かかわり方
 - ・ 若年性認知症のリハビリテーション
 - ・ 症状に合わせた寄り添い方

- (キ) 就労・経済関係 (19件)
 - ・経済的な支援、経済的な支援の種類 (6)
 - ・就労の状況、就労の支援 (4)
 - ・就労、転職した事例 (3)
 - ・労務的な支援、就労の継続の支援 (2)
 - ・就労や受け入れにあたって必要な支援 (プログラムや人手) (2)
 - ・本人が活動できる場や受け入れ可能な企業の情報 (2)
- (ク) 地域社会について (件)
 - ・本人が暮らしやすい地域づくりへの普及啓発 (3)
 - ・地域の理解者を増やすための認知症の理解、受け入れや対応、地域づくりについて考える機会 (2)
 - ・地域のボランティアの育成と継続
 - ・各地域の活動
 - ・当事者や家族が感じる「あったらいいな」
- (ケ) 交流・ネットワークについて (1件)
 - ・家族会の現状
- (コ) その他 (2件)
 - ・高齢、若年それぞれの認知症の症状や支援方法について
 - ・生きがいつくり

3 結果および考察と課題

(1) アンケート調査実施について

藤沢市では、若年性認知症についてのアンケート調査は初の試みであったが、今回調査対象とした事業所の約7割から回答を得ることができた。

高齢者の認知症に比べて低い有病率であり、また相談自体を受けたことのない事業所もある中で、回答率が約7割であったこと、また自由記載の多さから事業所・支援者のこの疾患に対する支援について、関心の高さが推測できる。

相談を実際に受けたことがある事業所（就労移行・就労移行支援事業所を除く）は、委託相談・計画相談支援事業所・介護保険支援事業所・地域包括支援センターでは概ね半数前後だったが、社会福祉協議会では1割以下、就労支援・就労継続支援事業所は1割未満となった。これは、若年性認知症の診断を受け、何らかの支援を受けることを考えた時の相談先が基幹相談支援センターや委託相談支援事業所、介護保険支援事業所や地域包括支援センターとなっていることが考えられる。

(2) 相談内容について

相談内容は、介護保険や就労・社会参加があげられ、実際のサービス利用では、デイサービスが多かった。

また就労移行・就労移行支援事業所は受け入れについての「実績なし」が多く、他の疾患に比べて患者数自体の少なさが伺える。

自由記載の内容は多岐にわたったが、支援の課題の中では社会資源についてのものや、介護者・家族についての記載が多く見られた。また就労・経済関係について深刻な内容があがっていることから、若年性認知症になったことによる生じる問題や支援の難しさを思わせる。

(3) 必要な社会資源について

必要な社会資源については、交流・ネットワークについて、経済・就労関係について、地域社会や社会参加についてなど多く見られた。また情報・相談先についても多くの記載が確認できた。

(4) 研修希望内容について

研修希望内容については、他の自由記載欄と同じく情報・相談先を含む社会資源についても多く見られたが、ケースの具体例や医療・疾患についてなど具体的な情報のある研修を求める記載が多かった。

(5) 考察・課題

若年性認知症はその性質上、発症年齢や発症時の本人の家族状況・社会生活状況、疾患自体の種類や進行状況などにより、必要とする支援は変わり、また多岐にわたる。今回の調査により、若年性認知症に係る支援には本人や家族・介護者に関わるものから、就労や経済的な支援、交流・ネットワークに関わる支援や進行状況・症状による支援、既存のサービスに適合できないこと、医療や疾患そのものの情報など多くの課題があること、支援者も疾患や支援に対する困惑を抱えていることが推察される。

今後若年性認知症についての支援を考える上で、まずは若年性認知症の方が、必要な情報や支援につながることで、また支援者が相談を受けた時に困難を抱えることがないようにすること、更に本人・家族への心理・社会的なケア、診断と診断後の支援や情報提供、地域や社会（就業施設含む）の疾患への理解の促進などを目的とし、効果的な情報提供についての検討や研修の開催、本人・家族・支援者等が学びを得られ、孤立化を防ぐための交流・ネットワークの構築、また、既存の支援をどのように組み合わせて提供していくのかなどの、具体的な事例検討など必要と考えられる。

また、今回の調査は事業所対象ではあるが、今後調査をする機会を得ることができれば、医療機関や当事者などへ調査対象を広げることで、より有効な調査となることが考えられる。

資 料

※この用紙のみ、FAXまたはメールで送信してください。
切 8月31日(水)



若年性認知症受入れに関する調査

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

藤沢市保健所 保健予防課 FAX 0466-28-2121
TEL 0466-50-3593(直通) E-mail fj-hokenyobo@city.fujisawa.lg.jp

事業所名				記入者名
住所	藤沢市			
TEL		メールアドレス		

※回答内容によっては、電話にて詳細を伺うことがございますので、記入者名の記載をお願い致します。

問1 若年性認知症の方の相談について

- 相談を受けている、または過去に受けていた → 問2 ^
- 相談を受けたことはない → 問3 (裏面) ^

問2 若年性認知症の方の相談を受けている、または受けていた事業所様に伺います

1 現在、相談を受けている進行形のケースがある場合

(1) 主な相談内容は何ですか。(主なもの2つまで)

- 就労について
- 治療について
- 障がい福祉サービスについて
- 社会参加について
- 介護保険サービスについて
- その他 ()
- 経済面について

(2) (相談支援中の)若年性認知症の方が利用しているサービスは以下のうちどれでしょうか。(複数回答可)

ア 介護保険サービス

- 通所介護(デイサービス)
- ショートステイ
- 訪問介護(ホームヘルプ)
- その他 ()
- 訪問看護

イ 障がい福祉サービス

- 就労移行・就労継続支援
- ショートステイ
- 居宅介護(ホームヘルプ)
- その他 ()
- いずれも利用していない

(3) 支援において、課題になっていることは何ですか。

2 過去に相談を受け、終結したケースがある場合

(1) 主な相談内容は何でしたか。(主なもの2つまで)

- 就労について 社会参加について 経済面について
 治療について 介護保険サービスについて
 障がい福祉サービスについて その他 ()

(2) 過去に相談を受けていた若年性認知症の方が利用していたサービスは以下のうちどれでしょうか。(複数回答可)

ア 介護保険サービス

- 通所介護 (デイサービス) 訪問介護(ホームヘルプ) 訪問看護
 ショートステイ その他 ()

イ 障がい福祉サービス

- 就労移行・就労継続支援 居宅介護 (ホームヘルプ)
 ショートステイ その他 ()
- いずれも利用していない

(3) 支援において、課題になったことは何ですか。

※→問3 へ進んでください。

※全員にお伺いします。

問3 若年性認知症の方に必要な、地域の社会資源は何だと思われますか。

問4 今後、若年性認知症についての支援者向け研修会を実施するにあたり、若年性認知症に関して知りたいテーマや内容について教えてください。

ご協力ありがとうございました。

切 8月31日(水)



若年性認知症受入れに関する調査

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

藤沢市保健所 保健予防課 FAX 0466-28-2121
TEL 0466-50-3593(直通) E-mail fj-hokenyobo@city.fujisawa.lg.jp

事業所名		記入者名
住所	藤沢市	
TEL		メールアドレス

※回答内容によっては、電話にて詳細を伺う場合がございますので、記入者名の記載をお願い致します。

問1 サービス種別を教えてください

- 就労移行支援 就労継続支援

問2 若年性認知症の方の受入れについて

- 受入れている、または過去に受入れていた → 問3 ^
 受入れたことはない → 問4 (裏面) ^

問3 若年性認知症の方を受入れている、または受入れていた事業所様に伺います。

1 現在、若年性認知症の方を受入れている場合

(1) 若年性認知症の方の主な活動内容は何か。

(2) 受入れにあたって工夫していることや、連携している関係機関はありますか。

工夫していること

連携先

(3) 支援において、課題になっていることは何か。

(4) 若年性認知症の方に必要な地域の社会資源は何だと思われますか。

2 過去に、若年性認知症の方を受入れていた場合

(1) サービスが終了となった理由について、当てはまるものにチェックをお願いします。
(主なもの2つまで)

- 病状が進行し、サービス内容が合わなくなった
- 本人の希望で終了となった
- 家族の希望で終了となった
- 理由は分からない
- その他 ()

(2) 現在、若年性認知症の方の利用申請があった場合に、受入れは可能ですか。

- 受入れ可
- 受入れ不可

(3) ※受入れ不可の場合のみ 理由について、当てはまるものにチェックをお願いします。
(主なもの2つまで)

- 若年性認知症の症状に合ったプログラムがない
- 他の利用者との関係を築くことに、課題がある
- 人員が足りない
- 若年性認知症についての知識や経験がない
- その他 ()

(4) どのようなサポートがあれば、受入れが可能になるとおもいますか。

※→問5へ進んでください。

問4 若年性認知症の方を受入れたことがない事業所様にお伺いします。

(1) 若年性認知症の方の利用申請があった場合に、受入れは可能ですか。

- 受入れ可
- 受入れ不可

(2) ※受入れ不可の場合のみ 理由について、当てはまるものにチェックをお願いします。
(主なもの2つまで)

- 若年性認知症の症状に合ったプログラムがない
- 他の利用者との関係を築くことに、課題がある
- 人員が足りない
- 若年性認知症についての知識や経験がない
- その他 ()

※→問5へ進んでください。

※全員にお伺いします。

問5 今後、若年性認知症についての支援者向け研修会を実施するにあたり、若年性認知症に関して知りたいテーマや内容について教えてください。

ご協力ありがとうございました。

切 8月31日(水)



若年性認知症受入れに関する調査

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

藤沢市保健所 保健予防課 FAX 0466-28-2121

TEL 0466-50-3593(直通) E-mail fj-hokenyobo@city.fujisawa.lg.jp

事業所名		記入者名
住所	藤沢市	
TEL		メールアドレス

※回答内容によっては、電話にて詳細を伺う場合がございますので、記入者名の記載をお願い致します。

問1 若年性認知症の方の相談について

- 相談を受けている、または過去に受けていた → **問2** へ
- 相談を受けたことはない → **問3 (裏面)** へ

問2 現在、または過去に若年性認知症の方の相談を受けている場合

1 現在、相談を受けている進行形のケースがある場合

(1) 主な相談内容は何ですか。(主なもの2つまで)

- 就労について
- 社会参加について
- 経済面について
- 治療について
- 介護保険サービスについて
- 障がい福祉サービスについて
- その他 ()

(2) 現在相談を受けている若年性認知症の方が利用しているサービスは以下のうちどれでしょうか。(複数回答可)

ア 介護保険サービス

- 通所介護 (デイサービス)
- 訪問介護(ホームヘルプ)
- 訪問看護
- ショートステイ
- その他 ()

イ 障がい福祉サービス

- 就労移行・就労継続支援
 - 居宅介護 (ホームヘルプ)
 - ショートステイ
 - その他 ()
- いずれも利用していない

(3) 支援において工夫していることや、連携している関係機関はありますか。

工夫していること

連携先

2 過去に相談を受け、終結したケースがある場合

(1) 主な相談内容は何でしたか。(主なもの2つまで)

- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 就労について | <input type="checkbox"/> 社会参加について | <input type="checkbox"/> 経済面について |
| <input type="checkbox"/> 治療について | <input type="checkbox"/> 介護保険サービスについて | <input type="checkbox"/> 障がい福祉サービスについて |
| <input type="checkbox"/> その他 (| |) |

(2) 過去に相談を受けていた若年性認知症の方が利用していたサービスは以下のうちどれでしょうか。(複数回答可)

ア 介護保険サービス

- | | | |
|--|--|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 通所介護 (デイサービス) | <input type="checkbox"/> 訪問介護 (ホームヘルプ) | <input type="checkbox"/> 訪問看護 |
| <input type="checkbox"/> ショートステイ | <input type="checkbox"/> その他 (|) |

イ 障がい福祉サービス

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 就労移行・就労継続支援 | <input type="checkbox"/> 居宅介護 (ホームヘルプ) |
| <input type="checkbox"/> ショートステイ | <input type="checkbox"/> その他 (|

- いずれも利用していない

(3) 支援において工夫したことや、連携した関係機関はありますか。

工夫したこと

連携した機関

(4) 支援において、課題になったことは何ですか。

※→問3へ進んでください。

※全員にお伺いします。

問3 若年性認知症の方に必要な、地域の社会資源は何だと思われますか。

問4 今後、若年性認知症についての支援者向け研修会を実施するにあたり、若年性認知症に関して知りたいテーマや内容について教えてください。

切 8月31日(水)



若年性認知症受入れに関する調査

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査へのご協力を何卒よろしく願いいたします。

藤沢市保健所 保健予防課 FAX 0466-28-2121
TEL 0466-50-3593(直通) E-mail fj-hokenyobo@city.fujisawa.lg.jp

事業所名			記入者名
住所	藤沢市		
TEL		メールアドレス	

※回答内容によっては、電話にて詳細を伺うことがございますので、記入者名の記載をお願い致します。

問1 若年性認知症の方の相談について

- 相談を受けている、または過去に受けていた → 問2 ^
 相談を受けたことはない → 問3(裏面) ^

問2 若年性認知症の方の相談を受けている、または受けていた事業所様に伺います。

1 現在、相談を受けている進行形のケースがある場合

(1) 主な相談内容は何ですか。(主なもの2つまで)

- 就労について 社会参加について 経済面について
 治療について 介護保険サービスについて
 障がい福祉サービスについて その他 ()

(2) (相談支援中の)若年性認知症の方が利用しているサービスは以下のうちどれでしょうか。(複数回答可)

ア 介護保険サービス

- 通所介護(デイサービス) 訪問介護(ホームヘルプ) 訪問看護
 ショートステイ その他 ()

イ 障がい福祉サービス

- 就労移行・就労継続支援 居宅介護(ホームヘルプ)
 ショートステイ その他 ()

- いずれも利用していない

(3) 支援において、課題になっていることは何ですか。

--

2 過去に相談を受け、終結したケースがある場合

(1) 主な相談内容は何でしたか。(主なもの2つまで)

- | | | |
|--|---------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 就労について | <input type="checkbox"/> 社会参加について | <input type="checkbox"/> 経済面について |
| <input type="checkbox"/> 治療について | <input type="checkbox"/> 介護保険サービスについて | |
| <input type="checkbox"/> 障がい福祉サービスについて | <input type="checkbox"/> その他 () | |

(2) 過去に相談を受けていた若年性認知症の方が利用していたサービスは以下のうちどれでしょうか。(複数回答可)

ア 介護保険サービス

- | | | |
|--|---------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 通所介護 (デイサービス) | <input type="checkbox"/> 訪問介護(ホームヘルプ) | <input type="checkbox"/> 訪問看護 |
| <input type="checkbox"/> ショートステイ | <input type="checkbox"/> その他 () | |

イ 障がい福祉サービス

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 就労移行・就労継続支援 | <input type="checkbox"/> 居宅介護 (ホームヘルプ) |
| <input type="checkbox"/> ショートステイ | <input type="checkbox"/> その他 () |
- いずれも利用していない

(3) 支援において、課題になったことは何ですか。

※→問3 へ進んでください。

※全員にお伺いします。

問3 若年性認知症の方に必要な、地域の社会資源は何だと思われますか。

問4 今後、若年性認知症についての支援者向け研修会を実施するにあたり、若年性認知症に関して知りたいテーマや内容について教えてください。

ご協力ありがとうございました。

発行：2023年3月 藤沢市保健所保健予防課